

秋深し… 夜、耳を澄ませば秋の虫の鳴き声が季節のうつろいを知らせてくれています。

朝晩は一気に冷え込んできています。家から一歩外へ出ると、ついこの間までの「暑さ」はなく、染み渡るような寒さが体を包みます。

早朝、我が家の犬たちを散歩に連れていくとき、家を出るとまだ辺りは夜の帳(とぼり)の中で真っ暗です。空を見上げるとオリオンをはじめとする冬の星座たちが暗闇に青白い光を放ち、辺りをうつつらと照らしています。

まだ息は白くはなりません、私にとってはもう「冬支度」が必要なくらいの感覚です。しかし、平熱が 38℃ほどある犬たちにとってはこれくらいの気温が心地よいようで、暗闇の中、辺りの様々な匂いを追いながら軽やかに歩いていきます。ときには、茂みの奥に続く森の中にイノシシやシカといった「けもの」の匂いや気配を感じてその場に立ち止まり、息を殺して暗闇をじっと見つめている姿を見ると、彼らが「オオカミ」と共通する遺伝子をもった動物であることをあらためて感じます。

さて、学校では子どもたちと言うと、運動会が終わりどの学年、クラスの子も子どもたちも「大きな達成感」を味わったようです。そこで、その「達成感」のあとが問題です。心からの充実感を味わうことができるような取組みが終わると、大人でも子どもでもその直後は、まるで「心に穴があいたように」しばらくの間は「何もする気がおこらない」状態になることがあります。それは「達成感」が大きければ大きいほど強くあらわれます。

しかし、このとき次のステップへの一歩へ導いていくと、これまでに得た「達成感」を原動力にして、今までよりもさらに難しい課題にチャレンジしていくことができるのです。それは、学習活動でもそれ以外の生活活動でも同じです。

困難を乗り越えてはじめて、「達成感」は得られます。そしてその「達成感」を得たとき、脳は特別なホルモンを分泌します。いわゆる『アハ体験』というやつです。「そうか!」という心底からの納得とともに感動が溢れ、その結果として、「また課題に取り組みたい!」「もっとやってみたい!」という気持ちになるのです。

勉強に関してもこういった『アハ体験』を一度でも経験することができれば、「時間を忘れて」、自分で様々な道筋を考えながら学習をすすめていくことができるようになるはずです。そのためには、様々な仕掛けが必要になります。そのひとつが、…



☆☆☆今日から「宿題頑張り習慣」が始まりました!!

昨年度からおこなっている、「宿題頑張り習慣」が始まりました。子どもたちが宿題に取り組んでいることに、しっかりと保護者の皆様方の応援をしてやって欲しいと思います。

テストなどの結果を先に求めるのではなく、まずは「努力」を「継続」する「習慣」をつけることが大切です。そのためには、宿題という学習を通じて「達成感」を得て欲しいのです。そのために、お家でも一声、応援の意味を込めて声かけをしていただくと、大きな励みになると思います!

☆☆☆中学年(3・4年)、高学年(5・6年)の算数で習熟度別授業をすすめています。

ご承知のように本校では「少人数指導」のための先生が二人います。正確には「指導方法の工夫改善定数」といいますが、これまでからも、この二人の先生が中心になって算数の授業に関して中学年、高学年の担任の先生とチームを組んで、「より効果的な授業」を目指して、教材の研究や指導方法について常に研究を重ねています。そして実際の日々の算数授業では、単元内容によっては、子どもたちの理解の定着の度合いに応じたより効果的な指導をおこなうために定着度の違いを中心にして一クラスを分割した授業をおこなっています。これにより、子どもたちがみな、最終的に到達目標に達することができるようになることを目指しています。

その中で最も重要なことが、先に書きましたが『達成感』です。これを味わうことができれば、その体験はしっかりと定着し、子どもたちはそこから段階を経て「自ら様々な道筋」を考えていくことができるようになるはずなのです。さらに、この習熟度別授業では「グループによる思考活動」にも重点をおいています。ひとつの課題を考えるとき、小グループに別れ、そこで子どもたちがお互いの考えを共有しながら結論をだしていきます。

こういった小規模な学習集団であればこそできることです。なお、この習熟度別の分割メンバーはいつも決まっているわけではなく、より効果的に指導を継続していくために入れ替わっていきます。

具体的な授業については、少人数担当の先生から出される「少人数だより」等をご覧になってください。

※レイ君は来週からまた登校しますのでよろしく!!

To be continued (次号に続きます)